

Exhibition of Mizuta Collection
Edo Kimono Style



江戸の 装い

よそお

水田コレクション展



2018

4.4
wed

21
sat

開館時間 午前 10 時～午後 4 時
休館日 日曜日・月曜日
観覧料 一般 300 円、高校生以下無料
(ただし、4月4日は入学式のため観覧無料)
会場 ギャラリー 1

Open : 10:00 ~ 16:00 / Closed : Sundays and Mondays /
Admission fee : Adult 300 yen (The admission fees of April 4 is
free because of Entrance Ceremony) ※Under 15 and high school
students are free / Place : Gallery 1

図版 = (左) 吉原真龍《夏姿美人図》部分、絹本着色、天保～弘化(1830～48)頃、当館蔵 /
(右)《納戸縮緬地 柳に燕模様 染小袖》江戸時代後期(19世紀)、遠山記念館蔵



城西大学水田美術館
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

江戸の装い

水田コレクション展



1 2



3



4

ファッションの流行というのはいつの世も存在しています。町人が経済的な余裕を持つ江戸時代、女性たちは、その時の流行色や模様、様々な素材が用いられたきものを、季節や行事に合わせて身に纏い、装うことを楽しんでいました。きものの意匠に注目すると、江戸時代初期は、絞り染や刺繍の技法に大振りな模様を配する寛文小袖が流行し、友禅染の誕生以降、繊細な模様表現が展開していきます。中期から後期にかけては、きもの全体に模様を散らした総模様や下の方にだけ配した裾模様の形式などが流行、享保期頃には、幕府からの儉約令を受けて、渋い色合いの縞や格子柄といった粋な装いが好まれました。加えて、憧れの歌舞伎役者や遊女、市井の美人や粋な男性たちが着ていた衣装やその着こなし方などは、人々のファッションに対する意識をさらに高めます。江戸時代の風俗を活写した浮世絵は、現代で言うところのファッション雑誌の役割も担っていたことでしょう。

このたびの展覧会では、所蔵の水田コレクションの中から、肉筆浮世絵や錦絵といった絵画資料を中心に、江戸時代の様々な装いをご紹介します。その他、遠山記念館のご協力により、ご所蔵品の中から実際に着用されていた江戸時代中期から後期のきものも展示し、多様な意匠模様をご覧ください。豊かな江戸の装いの世界をどうぞお楽しみください。

関連企画
ギャラリートーク (学芸員による展示解説)
 4月14日(土) 午後2時~
 ※予約不要/要観覧料

1. 上村松園《美人納涼図》絹本着色、昭和初(1925~34)頃、当館蔵
2. 《黄麻地 流水に雨銀杏色紙模様 友禅染・緞 帷子》江戸時代中期(18世紀)、遠山記念館蔵
3. 鈴木春信《六玉川 掃衣の玉川》中判錦絵、明和4年(1767)頃、当館蔵
4. 月岡芳年《風俗三十二相 にあいさう 弘化年間廓の芸者風俗》大判錦絵三十三枚揃のうち、明治21年(1888)、当館蔵

交通のご案内 / Access



■電車の場合
 東武東上線 坂戸駅乗換えで東武越生線川角(かわかど)駅下車、踏切を渡り徒歩10分
 By train: From Sakado station of the Tōbu-Tojō Line, take the Tōbu-Ogose Line and get off Kawakado station. It is a ten minute walk to the university.

■お車の場合
 1. 関越自動車道鶴ヶ島インター下車、鶴ヶ島方向に進み国道407号線を直進
 2. 「脚折四丁目」交差点で右折し、右に狩野動物病院の看板がある交差点で右折
 3. 一本松交差点を毛呂山方面に直進
 4. 橋(万年橋)を渡り、「明海大学病院」の看板のある交差点を左折し直進、踏切を渡り坂道を上る(約20分)

